

一カ



天理教アメリカ伝道庁

No.914

JANUARY

2024



tenrikyo.com



つらつらせんがく 熟々浅学



— “広告” —



新年あけましておめでとうございます

旧年中は、道の御用の上に、また伝道庁の上におつとめくださり、誠にご苦労様でした。

本年も昨年同様、変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年は、6月30日、中山大亮様、また、中山はるえ様のご臨席を賜り、アメリカ伝道庁創立90周年記念祭を執り行います。また、前日には、アメリカ婦人会・アメリカ青年会創立70周年記念合同総会を開催します。一人でも多くの方にご参集いただきたいと存じますので、どうぞ宜しくお願い致します。

さて、2023年9月、「ラグビーワールドカップ2023フランス大会」が開催されました。残念ながらアメリカとカナダからの代表チームは出場を逃しましたが、日本代表は出場し、アメリカとカナダの代表チームを降したチリの代表チームに初戦で勝利を収めました。

このような大会では、入場料で運営費の一部を捻出しますが、多くの企業にスポンサー契約を結んでスポンサー料を徴収し、それで大会運営費の大部分を補っていると思います。そして、

スポンサー企業は「オフィシャルスポンサー」となり、大会会場などで広告を出しての宣伝が可能になり、自社の製品の売り上げが伸びる効果が期待できます。現在ではこのような仕組みが主要なスポーツ大会などでの運営方法だと思えます。

昨年（2023年）のラグビーワールドカップ大会の開催国のフランスには、このようなイベントで使用する競技場に広告を出す際に“ある規制”が存在しています。その規制とは、1991年に制定された通称「エヴァン（Evan）法」で、公共施設などでのアルコールやタバコの広告を出せないという内容です。広告を出せないことによって、未成年者のアルコール飲酒やタバコ喫煙を抑制することになり、それは未成年者の健康を保護することであり、ひいては、健康を維持してもらうことによって治療費などの抑制にも繋がり、福祉を保護することにもなるという考えが、この規制制定の根底にあるようです。ですので、ビール会社やタバコ会社が、フランス国内での公共施設を使ってのイベントのスポンサー契約を結ぶ際には“ハードル”が存在するのです。

しかし、このフランス大会では、日本のアサヒビール会社が“ワールドワイド・パートナー”となって“アサヒスーパードライ（Asahi Super Dry）”が大会の“オフィシャルビール”になっていたのです。アサヒビールがオフィシャルスポンサーとなった以前は、2019年の日本大会でもオフィシャルスポンサーだったハイネケンでしたが、この規制法のためフランス大会ではこの足を踏み、スポンサー契約を結ばなかったそうです。

当然、アサヒビールとしては、「エヴァン（Evan）法」によって競技場では広告を出せないことは承知の上でのスポンサー契約だったのですが、ラグビー日本代表を応援したいという強い意思もあったのだろうと想像します。

また、アサヒビールとしては、競技場で広告を出せなくても、フランス国内の各都市の“ラグビー・ピレッジ”などではビールなどアルコー

ル飲料を提供でき、“ワールドワイド・パートナー”となったメリットは多くあったようです。

しかし、それだけのメリットの享受だけでスポンサー契約を結んだのではなかったようです。アサヒビールは少ししたたかな戦術をとりました。競技場で「アサヒスーパードライ」と見間違えるような電光掲示板の広告を出したのです。

どのような広告を出したかと言いますと「Asahi 0.0% SUPER DRY」としたいところを「Aaah! 0.0% SUPER TRY」としたのです。

この文章の文字列を見ていると少しも面白味がありませんが、実際の広告をパッと見たところ、その「Aaah!」や「SUPER TRY」の違いに気付きにくいのです。「アサヒスーパードライ」のビールのラベルと同じフォントとデザインを使っていますので「a」が「s」のように見え、「アサヒスーパードライ」を想起させるような広告になっていました。

しかし、それだけでは話は終わりませんでした。

現在のテクノロジーでは、電光掲示板の広告の表示を、テクノロジーを使って簡単に変更することができますので、試合後に配信される映像での電光掲示板の文字にデジタル処理を施して「SUPER DRY」に変えていたとのこと。

もともと広告は、消費者の商品の購買意欲が湧くように作成されています。ですので、広告は商品の売れ行きに影響を与え、広告に起用される俳優によって売れ行きが大きく左右されることもあります。

教理的な解釈を試みますと、広告は「ほしい」の心遣いを“誘因”していると言えるのかも知れません。

道友社から出版されている「八つのほこり」に『人には「ほこり」を積みさぬよう心を配らねばなりません』とありますが、広告は、変な言い方ですが、人々に「ほこり」を積みさせることを行っているのかもしれない。つまり、「ほしい」という「ほこり」を人々に積みさせるようにしているのかもしれない。

そのようなことを考えると、広告は“悪”のように思えてしまいましたが、そうとも言えません。世の中の経済を回す上では広告は必要なのかもしれないし、“異なった使い方”もできると思うのです。

例えば、厳密には“広告”とは言えないで

しょうが、日本国内の多くの天理教教会では「感謝 慎み たすけ合い」の横断幕を掲げています。それを見て、それぞれの言葉の意味を再認識して、心を正す人も出てくるのではないのでしょうか。

ある作家が自動車で天理市内を通った時、その横断幕を見て「感謝とたすけ合いの心はあるかもしれないけど、現代の私たちには慎みの心が欠けているのかもしれない」というようなことを言っていた文章を読んだことがあります。

天理教少年会では「三つの約束」の中に「物を大切にしましょう！」と掲げていますが、これも一種の“広告”と言えるのかもしれませんが、これは勿体ないという心を養うことを促しているのだと思うのです。

また、日本では夏になれば「こどもおぢばがえり」のコマーシャルをテレビで流してくださっていますが、子供たちを「こどもおぢばがえり」に誘い、少しでもお道を知ってもらい、将来「よふぼく」の一員になってもらって、陽気ぐらし世界実現と一緒に目指そうということだと思うのです。

このように考えますと“広告”は使いようではないかと思うのです。

企業は商品が売れるように広告を出すのは当然のことでしょうが、私たち天理教信仰者としての“商品”（という言い方には語弊がありますが）は御教えでしょうから、それをどのように“売れる”ようにするか。その方法として、「天理教と言えびのきしん」と認識しておられる一般人も多いでしょうから、「ひのきしん」の言葉は一種の“広告”になるかも知れません。

御教えを世界の人々に知らしめる方法として“広告”を活用することがあってもよいように思います。つまり、如何に天理教の“商品”の“広告”を作り、そしてそれを如何に活用するのかということなのです。

少し世俗的な話になりましたが、つまり、如何に天理教を広めるのか、御教えを広めるのか。その方法として、さまざまな“広告”を作成して御教えを広めることは、一つの遣り方ではないかと思うのです。

皆さんはどのように思われるでしょうか。

深谷 洋

立教186年12月月次祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、本年も変わらぬ御守護をくださり、無難にお連れ通りいただきましたが、本日は早くも納めの御祭りを執り行う日柄となりました。顧みますれば、世界では戦争、紛争が続き、各地での災害も発生するなど、大きなふしを見させていただいております。教内では、教祖百四十年祭年祭活動の一年目として本部巡教が行われ、ようぼく一斉活動日を実施するなど致しました。管内では、六月に天理教フェイスカンファレンス・ソウルファイアを開催し、七月には四年振りに開催されたこどもおちばがえりに参加し、八月には縦の伝道講習会を開催するなど人材育成にも力を入れておりました。来年の教祖百四十年祭三年千日の年祭活動の二年目に向けて、私共は、常にちばに心を繋ぎ、御恩報じを念じて、陽気ぐらしを目指して、日々たすけ一条の御用に努めております。その中でも今日の吉日は、当伝道庁の十二月月次祭を執り行う芽出度い日柄ですので、只今より、ちばの理を頂戴して、おつとめ奉仕者一同、心を一つに合わせて、陽気に座りづとめ、てをどりをつとめさせていただきます。

御前には、今日の日を楽しみに寄り集いましたよふぼく、信者一同が、日頃賜る御高恩と本年一年間、無事にお連れ通りいただきました御守護に感謝し、尚も変わらぬ親心にお縋りたいと伏し拝む状をも御覧くださいまして、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

今月二十六日より二十九日まで、伝道庁にて学生会冬季練成会の開催を予定し、また、二十八日より三十日まで、おやさと練成会事前講習を開講予定ですが、何卒、次世代の若者たちの育成の上に変わらぬ親心をお掛けくださり、それぞれの行事を無事に滞りなく終えさせていただきますようお願い申し上げます。

私共は、納めの月次祭に当たり、新年に迎える教祖百四十年祭三年千日の年祭活動二年目に向けて更に活動を推進し、また、来年六月三十日に迎えます当伝道庁創立九十周年記念祭を無事に迎えて滞りなくつとめ終えられるよう、管内教友が一手一つになって成人の道を歩みたいと存じます。何卒、親神様には、私共の真実の心をお受け取りくださいます、来る新年には、世界の人々が一れつ兄弟姉妹の自覚に立ち、共々に手を取り合ってたすけ合う世の状に立て替わりますよう、また、管内教友一同の心の成人が進みますようお導きの程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

12 月月次祭神殿講話

サウザンパシフィック教会長
岡崎 マーロン

レディース&ジェントルメン、グッドモーニング、ブエノス・ディアス、ダマス・イ・カバイェロス、ヨロブン アニョン ハセヨ、皆様、おはようございます。本日の月次祭で、世界平和、世界救け、そして世界の兄弟姉妹の陽気ぐらしを共々に祈念申し上げました。ありがとうございます。

本日の通訳者、キム・アリムさんと岡崎宏子会長に前もって、私のために一生懸命通訳してくださることに対してお礼を申し上げます。容易なことではないのは分かっています。ありがとうございます。

本日は、アメリカ・カナダでお道を開く鍵であると私が信じている「おつとめ、おてふり」についてお話しします。ところで、「おてふり」という言葉と「てをどり」という言葉を交互に使わせて頂きますが、基本的に同じ意味です。てぶりのあるおつとめの踊り、という意味です。

本日の神殿講話をさせていただけることを本当に光榮に思い、私を任命してくださった片長先生にお礼申し上げます。どうぞお聞き取りいただけますようお願いいたします。

その前に、私の顔が先月と何か違うことに気づいた人はいますか。そうなんです、老人のひげはもうありません。どう思いますか？

「なぜヒゲを剃ったんだろう？」ときっとお思いですね。私の答えは、「いつも妻が勝つから」です。実際、妻は私に髭を剃らないといけなく、「さもなくば」というのです！私は「さもなくば」何なのかわりたくなくなりました。

さて、私の話はこれくらいにして、もっと重要な話をしましょう。おつとめのおてふりは、アメリカやカナダ、そしてその他の英語



圏の国々で私たちのお道を開き切る鍵だと私は信じています！では説明しましょう。

まず、天理教では、おたすけの二本柱は「おつとめ」と「おさづけ」です。そして、おさづけの効能が発揮されるのは、(1) おつとめをつとめ、私たちの心が清められる。そして、(2) おさづけを取り次がせて頂く私たちの誠真実による、と私は信じています。

要するに、おつとめとおさづけは二つ一つであり、かぐらづとめと、そして、ここアメリカやカナダ、そして世界中で行っている日々、月々のおつとめ、おてふりとは切っても切れない関係にあると私は信じています。

おつとめのおてふりが、アメリカやカナダで、どのように私たちの道を開き切る一助になるのでしょうか。90年以上もおつとめをつとめ続けてきたのに、なぜアメリカ・カナダではまだ道が大きく開かれていないのでしょうか。原因はきっとたくさんあるでしょう。では、この問いに答えるために、天理教が信じられないようなペースで飛躍的に伸びていた時を振り返ってみましょう。

教祖が現身を隠された1887年から10年後の1897年までの10年間で、天理教は数千人の信者から約700万人、800万人の信者

数になったと推定されているということをご存知でしょうか。どうすればこんなことが可能でしょうか？これは当時の日本全人口のほぼ10%に相当します。おつとめの勤修、そしてお願いづとめによってこうなったのに違いないと私は思います。というのは、その当時、まだおさづけを頂いていた人は数少なかったからです。

では、みかぐらうたではおつとめについてどのように言っているのか、見てみましょう。

六下り目四ツ、五ツには、

四ツ ようこそつとめについてきた

これがたすけのもとだてや

五ツ いつもかぐらやてをどりや

す糸ではめづらしたすけする

ここではっきりとしています。私たちがおつとめをすると、神様はお喜びになり、このおつとめがたすけのもとだてとなるのです。さらに、かぐらづとめとてをどりがつとめらる時、私たちの場合は座り勤めとてをどりですが、神は目覚ましい救けをして下さるのです。

次に、おふでさきにはこのように書かれています。

りうけいがいさみでるよとをもうなら

かぐらつとめやてをとりをせよ 1号 14

このたびははやくてをどりはじめかけ

これがあいずのふしきなるそや 1号 15

ここで言うりうけいとは、私たちの生活を支えるすべての食べ物やその他の御守護の比喩と考えられます。ですから、豊かな御恵を望むなら、不思議な御守護をいただけるのだから、早くてをどりをするようにと、神様は私たちに求めているのです。

さらに、庁長先生が10月の神殿講話で述べられたように、おふでさきではおつとめからは少なくとも次の5つのことが達成されると教えられています。

このつとめなんの事やとをもっている

よろづたすけのもよふばかりを 2号 9

このつとめなにの事やとをもっている

せかいをさめてたすけばかりを 4号 93

このみちははやくをしへるこのつとめ

せかい一れつ心すまする 7号 99

にち／＼にはやくつとめをせきこめよ

いかなるなんもみなのがれるで 10号 19

とのよふなむつかしくなるやまいでも

つとめ一ぢよてみなたすかるで 10号 20

ですから、おつとめの目的は、よろづたすけ、世界を平和に治め、道を早く教え、心をすまし、どんな難からも逃れ、どんな病気からも救うことなのです。おつとめはこんなに大切なのです！また、真柱様は論達第四号の中で、次のように仰っています。

「おつとめで治まりを願い」

以上のような理由から、今、私たちはこれまで以上に、おつとめをつとめ、他の人々のために祈る必要があるのです。おつとめを勤めるという時、私が申し上げているのは、日々月々のおつとめに付け加え、お願いづとめのことを申ししているのです。

おつとめを始める前、教会の信者さん方にいつもなるべく言っているのは、天理教のおつとめは要するに感謝のおつとめであり、次に他の人が救われるように祈るおつとめであり、最後に自分のために神様に助けを求めてもいいおつとめであると言っています。

以前、私の子供たちが、「ダディ、どうして毎日おつとめをしなきゃいけないの？」と聞いて来ました。私は彼らに、「神様は毎日私たちに御守護を与えてくださるんだよ。だからこれが神様にありがとう、という方法なんだよ」といっていました。

ですがある時、次男の力(りき)が小さかった時、彼はとても賢いんですね、私にこう言ったのです、「ダディ、違うよ！神様にありがとうって言いたい時は、『神様ありがとう！』って言うんだ。」その時、力は6歳か7歳くらいだったと思います。そのような理屈に対して反論できませんでした。ですが、今は理解してくれていると思います。そうかな、力？

近くにいれば、身体的、精神的、感情的に病んでいる人におさづけを取り次ぐことができます。

そして遠いところにいる人のために祈るときは、座りづとめとてをどりを通して祈願することもできるのです。昔の先人たちは、そのような祈りで、あざやかなめずらしいおたすけがあがったのです。お願いづとめという、

特別なおつとめをつとめられたのです。

お願いづとめとはどのようなもので、どのようなご守護があったのかお知りいただけるように、逸話編から引用させていただきます。「一つやで」と題された逸話# 199 では、本田せいという女性が 49 歳の時に瀕死の腹痛を起こし、医者に見放されていました。その時教祖は、「死ぬのやない。早よう去んで、しっかりとおつとめしなされ。」

とお言葉を下さった。

そこで信者さん方は「。。。夜昼六座、三日三夜のお願ひ勤めをした。が、三日目が来てても、効しは見えない。そこで、更に、三日三夜のお願ひ勤めをした』とあります。

ご参考までに申し上げますが、このお願いづとめは座りづとめとてをどりの両方で、夜に三回、昼に三回つとめられました。計算をすると、月次祭一回分のすべてのおてふりを四時間ごとにつとめた、ということです！子供達、聞いているかな？

本田せいには不思議にも回復し、その後 30 年、79 才まで長生きさせて頂いたのです。

逸話編第 108 話で「登る道は幾筋も」では、今川清次郎という男がやはり胃の病気で長年苦しんでいたお話では、

「三日三夜のお願ひで、三十年来の胃病をすっかり御守護頂いた。」

とあります。

これらはほんの 2 つの例に過ぎません。先人の方々は当たり前のように、自然にこのようなことをしていたのだと思います。初期の先人達が、いかに一生懸命おてふりをし、不思議な奇跡的な御守護を頂くことができたのか、ということがわかります。ですが今、私たちは何をしているのでしょうか？

私自身はというと、日本語も手の動きも理解できなかつたので、おてふりは嫌いだったし、よろづよさえもできませんでした。おてふりが大嫌いだった私が、なぜこの赤い本「おてふりの手引き」を作ることになったのか、今でも驚いています。神様は本当に不思議なことをなさいます。

しかし、それよりも私がかもっと驚いたのは、おてふりを踊っている時、みかぐらうたの言



葉に何度も感動して涙を流し、最も必要なときに神様からのメッセージを頂いたということです。しかし、みかぐらうたとおてふりが、このように私を感動させることができたのは、私が大学で 5 年間日本語を学び、10 年間日本に住んでいたからに他なりません。

ここで、天理教における祈りの力について、より個人的な例を挙げたいと思います。私の母、岡崎一子は、ここ何年も、信者さん達のことを思って「おねがいづとめ」という特別なおつとめを行ってきました。私も一緒にすることもあれば、しないこともありました。しかし、遠方に住む信者さん方が大病を患ったことをきっかけに、私も母と一緒にてをどりをするようになり、今では毎日の祈りの一部となっています。

私たちが今お願いづとめをしている人の一人は、末期の病氣と診断され、一時は非常に悪い状況でした。医師は望みを捨てていました。しかし、教祖の御守護により、奇跡的にこの方の症状と検査結果は大きく改善し、今ではほぼ普通の生活を送っています。

この人は私にとってとても掛け替えのない人なので、教祖がこのおてふりというおつとめを通して私に祈るすべを下さり、おつとめ

を通して私は直接コスモスとつながり、神の体である宇宙全体とかかわることができるようにして下さっていることに対して、私の心は感謝の思いでいっぱいです。

さて、話題を少し明るくして皆さんにクイズを出しますが、これには庁長先生と奥さんも含まれています。それではちょっとだけ皆さんにお立ちいただきたいと思います。これからいくつかの質問をしますが、正直にお答えください、でないとこの実験は成功しません。質問の回答は立ったまましているか、座るかで答えます。

それではみなさん、誰の助けも借りずに、一人で「座りづとめ」が全部できますか。できない方は、お座り下さい。それでは一人で「よろづよ」を踊れる人は？ できない場合は座ってください。

では、前半の一下り目から六下り目まで、誰の助けも借りずにできる人、お歌の印刷なしで、誰も横に立たないで、真柱様のCDなしで、など。できない人は座ってください。そして最後に、十二下り全部できる人、できない人は座ってください。まだ立っている人には、何にも頼らず、何も見ずにてをどりをすべて一人でする人です。超人的です！大きな拍手を送りましょう。そして、そのまま立っていて下さい。さて、次の質問ですが、まだ立っている皆さんは、日本語がわかりますか？（日本語がわかる人は座ってください。日本語が話せる方は、みなさんお座り下さい。

さあ、残っているのは誰でしょう？ 森下ケイ先生。あなたは本当にスーパーウーマンです！素晴らしい！あなたの様な人がもっと必要です。しかし、あなたの様な人がこれほど少ないということは、ヒューストン、問題です。これがアメリカ・カナダの問題なんです。森下ケイさんの様な人が足りないのです。

私たちの問題は、おてふりを一人で全部踊れるようになるには日本語を知っているということはほぼ必須条件だ、ということです。私知っている限り、アメリカ・カナダで日本語を理解せず、全てのおてふりができるのは、ジョージ・ブレッシュ師、佐々木ルイズ夫人、森下ケイ会長しかいません。当然間違っ

ている可能性がありますけど、もし私が間違っていたらとても嬉しいことです。

この「おてふり」がいかに重要であるかを考えれば、英語圏の人たちに「おてふり」を効果的に教える、より良い方法を見つけなければいけません。90年以上経っても、日本語を母国語としない三人しかこの重要な「おてふり」を習得できないのであれば、私たちは今、何か違うことをしないとイケないのです。アップル社のスティーブ・ジョブスは「違う考え方をしよう」と言っていました。

また、アインシュタインはかつて、「狂気とは、同じことを何度も繰り返しながら、違う結果を期待することだ」と言いました。ですから、狂気にならないようにしましょう。教祖により良い結果をお見せできるように、同じことばかりするのはやめましょう。

さて、日本語を理解せず、私たちのおつとめを理解できないアメリカやカナダの人々の心を打つにはどうしたらいいのでしょうか？

教祖の「おてふり」を学ぶ上で平等な土俵に立つためには、インクルージョン（包摂）、多様性、公平性を促進しなければなりません。現在、公立学校では、ADHDやディスレキシア（難読症）、自閉症など、特別なニーズを持つ子どもは、そのニーズに合った特別な指導を受け、成功できるようにしています。学習障害を持つ子供たちを支援するのと同じように、英語を話す人たちが「おてふり」を学ぶことができるように、私たちは何かを変える必要があるのです。そうすれば、彼らもおてふりを覚えるのに成功し、将来、ここアメリカ・カナダで天理教の教えを広めることができるスーパーマン、スーパーウーマンになることができるのです。ケイ会長さんの様に！

ここでハッキリ申し上げますが、「日本語が理解できない」ということは、おてふりを理解して暗記する上で本質的に学習「障害」となるです。

韓国で天理教が成功している大きな理由のひとつは、母国語である韓国語でおつとめやおさづけができることだと私は思います。私たちの素敵な韓国語通訳者、キム・アリムさんはその輝かしい例です。彼女は最初に韓国

語でみかぐらうたとおてふりを習いましたが、今では日本語でも同じように踊ることができず。実際、彼女は日本語のみかぐらうたも韓国語のみかぐらうたも同じくらい好きだと先日教えてくれました。アリムさん、カムサハムニダ！

英語で歌って踊れるみかぐらうた SDM は、アメリカ・カナダの兄弟姉妹の心をとらえる新たな入り口として役立つと信じています。ですから、90 周年の目標の一つである他者のためにおつとめを通して祈るということ、より多くの人に実際に行ってもらうためのツールとして、SDM を積極的に活用していきましょう。

「コミュニティの人たちのために、おつとめを通して」祈りましょう。

さらに、逸話編 18 話「理の歌」では、みかぐらうたとおてふりに関連して、教祖は、

「この歌は、理の歌やから、理に合わせて踊るのや」とおっしゃいました。

英語の SDM は、みかぐらうたをほぼ直訳し、おうたと手の動きを一致させ、教祖が教えられた旋律とメロディーを一音一音一致させたものです。投げの手の動き以外は、完成された SDM の座りづとめとよろづよは、「歌の理」と「踊りの理」を 100% 一致させています。つまり、「りぶり」と「てぶり」が一致しているのです！

SDM は単なる道具に過ぎませんが、いつの日か英語圏の人々が、キム・アリムさんができるようになったのと同じ様に、教祖ご自身が教えてくださった通りに、みかぐらうたを歌い、おてふりを踊ることができるようになるための鍵となる大切な道具なのです。

親神様の子供である人間は皆、子供の頃、歩いたり走ったり踊ったりする以前に、まずはハイハイができるようにならないといけません。この SDM は、英語を話す人たちが立ち上がり、教祖の尊い「おてふり」と「みかぐらうた」の素晴らしさを、自分の身体で、脳で、呼吸で、本当に感じられるようになるための足がかりとなるのです。

心配されている方がいるといけないので申

し上げておきますが、SDM は決して皆様に強制するものではありません。ですが、必要としている人が多くいると思います。日本語を話す私たちが、教祖の素晴らしい教えに合わせて踊るときに感じる感動を、いつの日か彼らも感じられるように。

言葉よりも行動がものを言いますので、今年の夏、ソウルファイヤー・カンファレンスで紹介された SDM の座りづとめとよろづよの最終版をお見せしたいと思います。

いかがでしょうか？この SDM プロジェクトが始まったのは 1994 年、約 30 年前のことですが、多くの方々がその内容に貢献してくださり、ここまで来ることができたことを本当に感謝しています。ありがとうございます。

アメリカやカナダの人々、特に若者達がおつとめのおてふりを理解し受け入れられる様に私たちが援助し、彼らがそのすべての不思議と御守護を体感できるようになれば、これこそ、アメリカ・カナダにおける私たちの道を前進させる触媒となると思います。そして、おつとめの理解と実行が、アメリカ・カナダ現地の道において、親神様が原典で約束されたすべての御守護を享受できる元になると私は信じています。

ご静聴ありがとうございました。



上記 QR コードから伝道庁ウェブサイトにて神殿講話を動画でご覧いただけます。





伝道庁連絡



12 月月次祭

祭主 庁長
 扨者 田中知義 林 孝彦
 賛者 岩橋元博 屋敷ゲーリー
 指図方 長谷川邦昭
 神殿講話 岡崎マーロン（英）

お出直し

上原眞雄 NY- ジャージー笠岡布教所（登録名「笠岡アメリカフェローシップ布教所」）長が1月10日午前10時3分に出直されました。享年88歳。みたまうつしは1月12日に、告別式は1月13日に執り行われました。ご生前のご功績に厚く御礼申し上げます。

おやさと練成会事前講習

おやさと練成会事前講習は、昨年12月28日（木）～30日（土）の日程でアメリカ伝道庁にて開催され、8名が修了しました。

TSA 冬季練成会

TSA 冬季練成会は昨年12月26日（火）から29日（金）までアメリカ伝道庁にて開催され、19名が参加し、スキートリップには引率者を含めて24名が参加しました。

修養科英語クラス

修養科英語クラスが来年3月末から3ヶ月間、おちばにて開講される予定です。日本国査証の必要な志願者は、査証取得に時間がかかりますので、早々に伝道庁に知らせて下さい。尚、何らかの理由で修養科英語クラス開講の中止、また査証取得ができない場合がありますので、ご了承下さい

全教一斉ひのきしんデー

来年の全教一斉ひのきしんデーの計画を各地区にてお願い致します。各地区担当者の方への計画書用紙を配布していますので、未提出の方は、早々に伝道庁（担当：増野）まで提出して下さい。

ようぼく一斉活動日

各地区責任者は、第2回開催の「計画書」を2024年2月末までに、書記に提出して下さい。

教会長夫妻おたすけ推進の集い

2月17日（土）午後2時より、教祖140年祭年祭活動2年目にあたり、たすけ一条の歩みを一層進める上から、伝道庁に於いて「教会長夫妻おたすけ

推進のつどい」を開催致します。管内教会長夫妻と庁長が認めた対象者の皆様には、万障繰り合わせの上、出席くださるようお願い致します。尚、対象者には、案内の書面を配布、発送、配信していますので確認してください。

スリーデーコース

スリーデーコースを2024年2月23日～25日の日程で開催します。申込用紙は今月配布し、締め切りは2024年2月18日です。英語コースは4名以上の申込み、スペイン語は2名以上の申込みがある場合に開催します。

第85回アメリカ修養会

第85回アメリカ修養会が、2024年7月21日（日）から8月17日（土）まで開催予定です。開講約1ヶ月前（6月16日）までに、英語・日本語クラスは2名以上、スペイン語クラスは5名以上の申し込みがある場合に限り開講予定です。

能登半島地震募金

能登半島での地震災害に対して、3月17日（日）まで、伝道庁事務所に募金箱を設けて募金を始めます。小切手の場合は宛名に「Tenrikyo Mission Headquarters in America」と記入し、メモ欄に「能登地震」と書いてください。尚、現金の郵送はご遠慮ください。

Tax 控除を希望される場合は、封筒に現金又はチェックを入れて封をし、寄付者の氏名、住所、金額と「能登地震」と封筒に書き、募金箱に入れてください。後日、アメリカ伝道庁より感謝状をお送りさせていただきます。

この募金は「能登地震」の災害救援活動に役立ててもらえるよう「天理教災害救援ひのきしん隊基金」に届けます。

祭典役割

現在、おつとめ奉仕者には半年毎に伝道庁祭典参拝の出欠を確認し、また第2日曜日頃までその月の参拝の有無の最終連絡を待っているため、祭典役割の連絡は第2日曜日を過ぎ、多くの方に役割確認の電話を頂戴する状況になっています。そこで、来年（2024年）より、月初めにはその月の祭典役割をお知らせできるように致したいと存じますので、就きましては、祭典参拝の有無について、参拝予定月の前月月末までに伝道庁に連絡して下さいますようお願い致します。例えば、来年（2024年）1月の春季大祭参拝の有無に関しては、今月末（2023年12月31日）までに最終連絡を下さいますようお願い致します。

各会連絡

広報委員会

- ・90周年に向けた活動のアイデアを管内の方々が共有できるようにとの思いで、実際に活動している方々の情報を「一れつ・ニュースレター」に連載しています。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々の活動情報・写真等の提供をお願い致します。

情報提供先：川上 (kamishuyo@hotmail.com)
林 (takhayashi@gmail.com)

- ・8月の神殿講話から、伝道庁ホームページで日英両語での視聴ができるようになっていきます。
- ・「Stories Inspired by Oyasama」
現在5件が視聴可能になりました。
- ・Youtubeにて「SoulFire」の記録ビデオ(現6件)が視聴できます。



Stories Inspired by Oyasama



SoulFire

雅楽おとまり会 1月5日～6日



婦人会

- ・天理教婦人会第106回総会
2024年4月19日(金)
午前9時30分 於：本部中庭
記念行事：支部の集い
- ・地区責任者の集い
2024年1月20日(土)午後2時 (Zoom)
- ・主任と委員部長との懇談会を進めております。

少年会

- ・鼓笛隊員募集！道の教友と共に「一手一つ」の鼓笛活動をしませんか？たすけあいや、人のために尽くす喜びを学べる活動を行ってまいります。詳細は少年会委員 (moto1884@gmail.com) までご連絡ください。
- ・少年会員に教祖のお話をしましょう。親子ぐるみで教会に参拝し、ひのきしんをさせていただきます。

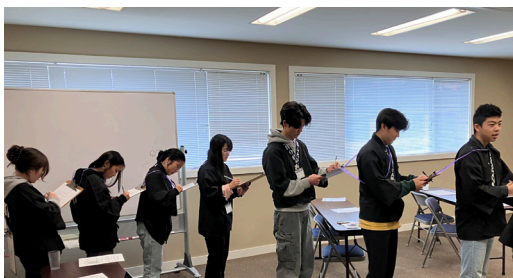
青年会

- ・インターナショナルひのきしん隊
7月18日～24日
- ・教祖140年祭の年の2026年7月18日～24日にもインターナショナルひのきしん隊の開催予定。

TSA 冬季練成会 12月26日～29日



おやさと練成会事前講習 12月28日～30日



－ 信仰の喜びを分かち合おう！私の90周年記念祭 －
そして教祖140年祭へ向けて

教会や布教所にお連れし、真実（まこと）の喜びを分かち合う

昨年12月末、NYセンター、伝道庁では元旦祭にお供えするお餅つきが、賑やかに行われました。特にNYセンターでは4年ぶりの餅つきとなり、約80名のスタッフを含めて200名以上の皆様にお越しいただきました。信者さんの友人やご家族、文化協会の生徒さんやご家族の皆さんと共に楽しい一日を過ごしました。

NYセンター



伝道庁



90th Anniversary

SHARING OUR JOY OF FAITH
Tenrikyo Mission Headquarters
in America

Saturday
**JUNE
29**

1:30 - 3:30 PM

70th Anniversary Joint
Convention
Young Men's and Women's
Associations
Attended by Mrs. Harue
Nakayama and Mr. Daisuke
Nakayama

3:30 - 9:00 PM

Commemorative program
and Dinner Reception

Sunday
**JUNE
30**

10:00 AM

Tenrikyo Mission Headquarters
in America
90th Anniversary
Commemorative Service

1:30 - 3:00 PM

Reception and
Entertainment



TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA
2727 EAST FIRST STREET
LOS ANGELES, CA 90033

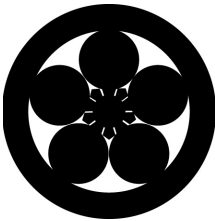
NON-PROFIT ORG.

U.S.POSTAGE
PAID

LOS ANGELES. CA
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

THE JOYOUS LIFE



TENRIKYO came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all humankind. God the Parent is the original and true Parent who not only created humankind but has nurtured and protected human beings ever since.

God the Parent created humankind so that by seeing us live the Joyous Life, God could share in our joy. The living of the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God's children, and thus we could realize that we are all brothers and sisters.

“With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed.
The mind alone is yours.”
Osashizu:June 1, 1889

We are taught that our bodies are borrowed from God the Parent and only our minds belong to us and, by the proper use of our minds, we will be able to live the Joyous Life.